

れ一平井洲誠▼月下の陣一前田洲月▼吹雪の敵一松崎洲▼城山一川本洲光▼舟弁慶一荒川洲帆▼重衡一桑名洲聖▼(以下来賓)時雨曾我一木原綾子▼白虎隊一仲川秀邦。外に詩吟七題。

筑前琵琶のしらべ板谷旭邑リサイタル  
十一月六日(木)夕六時大阪津村別院(北御堂)津村ホール、主催山崎旭幸会(有料)。羽衣一林田旭城、田子旭園、絃旭瑛、旭美津、旭勝、旭香、等二、尺八一▼小栗栖一板谷旭邑▼風林火山一板谷旭邑、絃旭幸、旭美津、旭香。立方二▼源実朝一板谷旭邑。

定例研究会

十一月九日(日)昼一時東京新宿区新宿洲鳳会館、主催日本琵琶協会(有料)。小栗栖一秋山溪水▼井伊大老一丸田穂容▼別れの盃一金尾洲丈▼紅葉狩一輕部岳瑞▼長柄の秋風一原島旭粧▼鉢の木一荒川洲帆▼講評一金田一春彦先生。

錦心流琵琶一水会全国大会

十一月十五日(出朝)十時東京銀座ガスホール、主催一水会本部。平野鈺水、松本孝水、高橋狸水三氏による「偲ぶ錦心」を序奏に独奏、合奏、掛合等合計四十曲が本部をはじめ全国各支部代表の名手、精鋭四十九氏によって華々しく展開され盛況裡に滞りなく本年の一大行事を終った。尚翌十六日は総会に引続き懇親会が開かれ出席者相互の旧交を温めた。

各流派琵琶演奏会

十一月二十四日(振替休日)正午京都東山松原上ル安井神社金比羅会館、主催京都琵琶協会。(次号詳報)  
十一月二十六日(休)正午横

須賀文化会館、主催桑水会。(次号詳報)  
山崎旭幸勲祝賀琵琶演奏会 十一月二十九日(出)正午京都烏丸夷川京都商工会議所主催日琵琶協関西支部役員有志。(次号詳報)

ラヂオ・テレビ琵琶放送

○：十月二十三日(休)午後三時十分NHK・FMラヂオ。電の口一鈴木流泉氏、五條橋一都錦穂女史各放送。  
○：十月三十一日(金)午後二時半テレビ朝日「プラスα」柴田旭堂女史がタレントと対談のあと「伽羅の兜」の一節を放映。

転居

○：西郷天風氏 東京都世田谷区舟橋五丁目橋工務店方に転居。

予告

○：義士祭献奏会 十二月十四日(日)昼京都東山仁王門前本妙寺、京都琵琶協会協賛。  
○：第二回懇親一泊旅行会 十二月十九、二十の両日南紀勝浦那智方面、主催日琵琶協関西支部。  
○：京都琵琶協会十二月例会 十二月二十一日(日)昼一時会員楊水氏宅(西宮市松園町一三ノ二)、電話〇七九八(二二)八二〇八番。「阪急電車夙川駅下車徒歩約七分」  
本年最終の例会につき繰合せ出席されたい。  
(訂正)  
京絃十一月号五頁藤巻旭鴻演奏会記事

経正一広瀬圭穂▼教盛一高田栄水記載洩れ。同七頁日本琵琶協会例会は悠絃会の誤植。右二点お詫して訂正いたします。

琵琶のお師匠さんも走り出すといふ日増しに何となくお心忙がしいことである。爽秋のよい季節に毎年のことながら各地で催された演奏会や集会等のお知らせを沢山頂いて、三ヶ月は毎号これらの報道記事が満載となり、ために有益な御寄稿の掲載が心ならずも後廻しの状態を繰返さざるを得ない結果を生じ御執筆の先生方には誠に申し訳なく恐縮している。時期的にも一応落付いたので次号からまた豊富な内容の京絃をお目にかけることが出来ると思つてゐる。御期待下さい。希望に輝く新年を迎えるにあたり、正月号は例年通り琵琶人相互の旧交を温ためるためにお名刺を掲載して一々そのお顔、お姿を心に浮かべながら琵琶道発展への思いを新たにされるのの上なく楽しいことである。どうか精々沢山のお申し込みを御期待申し上げる。これから暫く寒さと闘わねばならぬ、どうぞ皆様、健康管理、充分ご自愛の上よいお年をお迎え下さい。

昭和五十五年十二月一日発行(非売品)  
編集者 植村 寛 水  
発行所 高槻市津之江北町一ノ二番  
電話 〇七二六(七三六)〇五一三番

琵琶

京

絃

第三一八号 京絃社

建武の中興と

吉野五十七年(六)



父の忠義の精神を、子孫がそのままに承けて進んだのは楠木氏ばかりではない。新田も、名和も、菊池も皆同じであった。

新田義貞は延元三年閏七月二日、越前の国藤島の荘で戦死したが、その子義頭、義興、義宗等何れも父の志を受けついで奮戦した。義頭は越後守であったから、延元元年の冬越前より越後へ赴くつもりであったが、従兵が少ないのでそれも叶わず、金が崎城へ入らんとしたところ、今庄入道之を遮り道を塞いだ。義頭は由良光氏を遣わして交渉させたところ、「相当の家来を一人二人下さるならば、その首を取って合戦の証拠とし、お通ししよう」との返事である。義頭は、「今まで附纏ひたる士卒の志、親子よりも重かるべし。されば彼等が命に義頭は代るとも、我が命に士卒を代へがたし。」と云って断った。流石に今庄入道も感心して道をあけて呉れ、義頭は入城して翌年三月、

金が崎落城の時尊良親王に殉じて戦死した、齢二十一才であった。

武蔵野の合戦に高氏をあわてさせたのは義宗であった。正平七年閏二月、武蔵守新田義宗は宗良親王を奉じて一門挙げて出撃し、武蔵野に於て大いに高氏と戦い、一時は鎌倉を占領して兵勢甚だ盛んであった事がある。宗良親王が官軍を激励して「君が為、世の為何か惜しからん、捨ててかひある命をりせば」と詠まれたのはこの時である。

そのとき、高氏は大軍を従えながら逃げる、義宗はこれを追討する、

小手指が原より石浜まで、坂東道すてに四十六里を、片時が間にぞ追附きたる。將軍(高氏)石浜を打渡り給ひける時は、すてに腹を切らんとて、鎧の上帯切つて抛捨て、高紐を放さんと

していたが、家来が二十余騎奮戦して討死したその隙に、漸く隅田川を渡つて逃げた、逃

げる時高氏は三万余騎、追いかける義宗勢は五百余騎であったと太平記には書かれている。小手指が原は所沢の西、石浜は浅草観音の北、今戸のあたりである。坂東道は六町を一里とする習慣、四十六里は普通の三十六町を一里に直せば七里半、凡そ三十キロ、それを一時間で追つたといふのであるから、追撃の激しさが思いやられよう。

楠木、新田に劣らないのは菊池である。菊池は足利の根拠地から遠く離れていたため、吉野五十七年を通じて勢力を保ち、常に足利を苦しめることが出来、またその史料を後世に伝えることが出来た。

菊池家に家憲として伝わったものがある。家憲は家の憲法で、延元三年(一三三八)に菊池武重が書いて血判を押したもので、武重は武時の長男である。

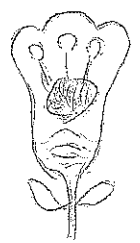
元弘三年三月、武時が博多に北條英時を討つた時、少式も大友も皆敵に廻つて勝利の見込みが無いと判るや、長男武重を郷里へ返して将来に備えさせ、自身は潔ぎよく戦死した。その事情も態度も、楠木正成父子の桜井駅の訣別と同じであった。武重は建武の中興に肥後守に任ぜられ、足利が鎌倉に廻つて謀反した時には、官軍の先鋒として東海道を下り、箱根で奮戦して勇名を馳せた。多々良浜で高氏を苦しめた武敏は武重の弟で、兄武重が中央で活躍している間、菊池の留守部隊長をつとめていた。武重の作った家憲は三箇條で、第一條 天下の御大事は、内談の議定あり



戦争の第一線にある気持ちなど微塵もなく、秋の遊山にでもあるような楽しさを満喫しながらの朝食は、洵に心地よい次第であった。其処には一輛の機関車と数輛の貨車があった。之が役にたてば、と思いつながら近づいて見れば、既に三名ばかりの兵が機関車に乗込み頻りに点検中であつたが、聞けばそこから五、六百メートル先に、線路の下を二十メートル程の壕を掘り、満載した列車をそっくり墜落するよう仕掛けてあるので、修理の用材を後方へ取りにやつたが、今日一日では開通の見込は先づないだろうとのことだつた。そこで私は五味田連絡員の意にまかせ、急いで憑祥に置いてきた琵琶や荷物を取りに行く事を頼み、自分はこの時を機会に久しぶりの慰問演奏もよからうと腹をきめたものの、さてこの丸い小山の頂上では敵側の監視哨から丸見えである。何処かよい場処はないものかと、スケッチを染しむ風によそおいながら歩行するうち、山麓の採石場跡を発見、其処に弾奏席に格好の岩影を見付け、五味田の帰りを心待ちにすることにした。

やがて、五味田は汗にまみれた顔に、ほこりだらけの身なりで帰って来た。聞けば帰途鎮南園境の坂道を昇り切った広場で、後続のトラックが五味田の乗ったトラックに追突し、為めに五味田は、大事に抱えていた琵琶のケース諸共地上に転落し、ケースの横腹を少し破損しただけで怪我も無かつたのは何より幸いだった。

琵琶を取出して見れば、何等損傷も見出せず、早速採石場跡の岩影を背にして弾奏を試みれば、少々絃音が思うようならぬと、周辺の樹木による反響が異状を示すならんと弾法は節約し、愛馬進軍歌一曲弾奏すれば、何時しか数十名の兵士が集まり、期せずして慰問会は開かれ、続いて露営の歌を弾ずれば、余りにもしめやかなるに驚き、愛国行進曲を以て結べば、ようやく元の活気をとり戻し得た。此の時から、私はこの三曲を以て得意の曲と定める事を心に契つたのであつた。



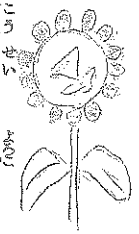
隨筆「徒然草」から

吉田兼好(一一二八—一三五〇、約六百年前)  
京都吉田神社の神官兼頭の子男、出家、和歌四天王の一人、隨筆家。全作品を通じて老想、儒教の思想、王朝文化への憧憬。

第十六段  
神楽(かぐら)こそ、艶(なま)めかしく面白けれ。大方(おほかた)、物の音(ね)には笛、箏(ひちりき)。常に聞きたきは、琵琶、和琴(わごん)。

楽器を挙げるのに琵琶を一つ数えた。いつ聞いてもよいと云っている。  
第五百十段  
能(のう)をつかむとする人、「よく為さむ程は、なまじひに人に知られじ、うちうちよく習ひ得て、さし出でたらむこそ、いと心憎からめ。」と常に云ふめれど、斯く云ふ人、一芸も習ひ得ることなし。未だ堅固、かたばなるより、上手(じようず)の中に交りて、誇(そし)り笑はるるにも恥ぢず。つれなく過ぎてたしなむ人、天性其の骨(こつ)無けれども、道に拘泥(なづ)まず、妄りに為(せ)ずして年を送れば、堪能のたしなまざるよりは遂に上手の位に至り、徳長(た)け、人に許されて、雙(ならび)無き名を得る事なり。(省略)

天才のなまけ者より、非天才の勤勉家の方が勝つ、と云つたのは至言である。この教え方、勵まし方がいかにも親切で不堪の人のために慰めにもなり、希望にもなってくる。(鴨水)



新作琵琶歌 更生の悦び

阿部万二作詞  
自然(じねん)の光浴びながら

清く明かるくたくましく  
生れ育ちし人間(ひとびと)の  
その人生(ひとのよ)の幸福(しあわせ)を  
誰か願わん人(ひと)もある。

真(まこと)の慈愛(なまき)を受けながら  
自力(じりき)の我が儘(まま)に  
貧(むさぼ)りねたみあらそそつ  
極み苦しむ生活の  
不安(ふあん)と焦燥(せうそう)に明けくれて  
生きがいなくも己(おのず)から  
陥(おと)ち往(ゆ)く我等(われら)にせんと。  
人生(ひとのよ)の真実(まこと)の  
教(おし)えをいただきて

我が身(み)自然(じぜん)に生まれ更(か)わ(り)つ  
迷(まよ)いを明(あ)かす真実(まこと)の  
御光(みひかり)の仰(おほ)げに照(あ)らされて  
我が身(み)の命(いのち)今(いま)あるは  
只(ただ)みなさまのおかげぞと  
心に深く思い知らされ  
不平(ふへい)不満(ふまん)も消(き)え失(う)せて  
感謝(かんしゃ)の心に満たされて  
真(まこと)の生(なま)きが感じつつ  
此(こ)の世(よ)の中(なか)の人々(ひと)と  
只(ただ)毎日(まいにち)をしあわせに  
喜び(よろこ)ばず楽しさよ。  
生(なま)れ更(か)わ(り)の仕合(しあ)わ(せ)と  
この更生(こうせい)の悦(よろこ)びを  
語り(か)り明(あ)かしてみなとも  
うたい証(あかし)しついでつまでも。

十一月三日(文化の日)恒例の静岡赤心流  
鶴翁先生主催の演奏会に招待されて平井春嶺  
さん、植村寛水さんと私の三人は、気持ちの  
よい秋晴れの同朝九時三十分京都発新幹線と  
だま号に乗車し二時間余で静岡着、駅から車  
で正午前会場の婦人会館に着きました。  
赤心会では毎年春は吟詠大会、秋は琵琶大  
会が開催され今年に十三回目で、私達は毎年  
欠かさず招かれて出演の末席を汚(こ)がしていま  
すが、今秋は会長鶴翁先生が御病後(ごびょうご)でお案(あん)  
じ申し上げていただきました。お顔を拝(た)して  
すっかり元氣を取戻された御様子で、薄陽江  
の難曲を立派に演奏されて安堵(あんぶ)しました。  
午前中は吟詠で、独吟合吟など男女青年  
会員数十人の熱吟や免状授与、会長挨拶が終  
って赤心会員四氏が琵琶を演奏されましたが  
その真剣な演奏振りに好感を抱きました。そ  
れから来賓の琵琶演奏となり東京、横浜、浜  
松、静岡等名流の方々に交りて私達三人も拙  
技を披露しましたが、満員の会場からは絶え  
ず感激の拍手が送られました。(別項参照)  
全演奏終了後記念撮影に続いて関係の方々  
が一堂に集まり乾盃、芸談などに花を咲かせ、



赤心流琵琶演奏会に  
参加して

私達は帰りの列車時間の都合で失礼ながら中  
座し、九時大過なく帰京して楽しい一日を送  
りました。(旭濤記)



京都琵琶協会の月例会

①十月十日(休)二時本部平井会長宅。(出  
席者)馬場鴨水、林旭萌、楊嶽水、梅原旭濤、  
矢吹旭美津、山岡旭清、安住旭康、牧南水、  
桜井旭富、水内緑水、平井春嶺、植村寛水、  
(来賓)伊吹そで夫人。秋風故郷の山、林、  
羅生門、桜井、小松の操、平井、花紅葉、  
牧、扇の的、楊、橋中佐、山岡。以上研修演  
奏のあと十一月二十四日開催の演奏会のプロ  
グラム発送準備などをして夕食を共にし七時  
ごろ散会した。尚本日の欠席者は林田旭城、  
戸倉旭嶺、戸田旭公、田中敦水、荒木旭媛、  
木下皇水の六氏。  
②十一月一日(休)二時本部平井会長宅。平  
井、木下、桜井、牧、山岡、安住、梅原、田  
中、馬場、植村の各会員出席。本日は来たる  
二十四日開催演奏会の前諸準備に半日を費  
し僅かに湖水渡、平井春嶺、橋中佐、山岡旭  
濤氏の演奏のみで夕食に一盞を傾けて芸談  
雑談に楽しい一刻を送り七時半散会した。  
錦心流琵琶演奏会  
十月十八日(休)一時東京上野本牧亭、主催

一水会本部青年開発部(有料)。舟弁慶一高橋理水...

日本芸術琵琶會十月例会

十月十九日(日)昼一時東京文京区大塚貸席京屋。伴流謡切第七弾法一錦幽...

各流派琵琶演奏會

十月十九日(日)正午立川市。市教育委員会。市文化連盟共催...

錦心流琵琶演奏會

十月二十二日(水)夕五時東京上野本牧亭。主催一水会本部企画部(有料)...

松田静水先生追悼演奏會

十月二十四日(金)朝十時半東京上野本牧亭。静水会一門有志...

近県親善錦心流琵琶演奏大會

十月二十六日(日)正午大阪府立婦人会館。主催一水会大阪支部...

錦心流琵琶演奏會

十月二十六日(日)昼一時逗子市立図書館。主管鉦水会...

注水。坂崎出羽守。横浜采崎統水。琵琶舞踊石重丸...

日本琵琶悠絃會十月例会

十月二十六日(日)昼一時東京中野区大和地区センターホール...

都派琵琶秋の公演

十月三十一日(金)夕五時東京日本橋第一証券ホール...

山田美喜子琵琶リサイタル

十月三十一日(金)夕七時東京国立劇場小ホール(有料)...

⑨琵琶と胡弓による麗庭秋。④琵琶。小鼓二重奏天声地響...

錦心流琵琶大会

十一月二日(日)正午福井市民福祉会館。主催水会(有料)...

赤心流琵琶演奏會

十一月三日(休)朝十時静岡市婦人会館。主催吟詠琵琶赤心流(会主赤心流流鶴翁氏)...

琵琶と詩吟詩舞の会

十一月三日(休)正午西宮市立夙川公民館松下ホール...

錦心流琵琶演奏會

十一月三日(休)朝十時半豊橋第一ホテル別館。主催紅水会(會長長森田紅水氏)...

洲楓会琵琶演奏會

十一月六日(木)夕五時東京日本橋第一証券ホール...